

令和7年度 上祖師谷中学校 学校経営

次年度（ 令和7年度 ）に向けた改善方策

温知学舎 世田谷区立上祖師谷中学校
校長 古川 恵樹

① 学習指導（授業）について

学舎で行った、「振り返り」から始まる「せたがや探究的な学び」をテーマとした授業研究は、小、中学校の教員の多くの視点で指導案等について時間をかけて検討されたことにより、授業を実践した教員のみならず、学舎全体で、日々の授業を様々な角度から振り返り、授業の質の向上につながった。

今後は、組織的に行っていく学舎の授業研究を始め、一人一人の教員が様々な研修等へ主体的に参加すること等により、「生徒が主語となる授業展開の構築」の研究を進めるとともに、その中における教員の役割を今一度確認し、「令和の日本型学校教育」で求められている「生徒の主体的な学びを支援する伴走者」としての資質の向上を図っていく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア) 全教科において、50分の授業の「ねらい」を板書等で明確にするとともに、その「ねらい」に対する「振り返り」授業内で確実にを行うことにより、「何が分かったか」「何ができるようになったか」を生徒に自覚させ、自らが新たな課題を見出す等、主体的に学習に取り組ませるとともに、指導と評価の一体化を図る。
- (イ) 授業ごとの振り返りシートの記入を行うことで、各教科等の特質に応じた、「見方・考え方」を働かせながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく。
- (ウ) 各教科の評価は、単元または内容のまとめりごとに行うとともに、そのまとめりごとの評価を総合した評価を算出し、通知表等で評定と共に示す。
- (エ) 教科の評価は、教科ごとに責任をもって評価方法等を生徒等に説明するとともに、「何が分かったか」「何ができるようになったか」等を生徒が的確に分かるようする。
- (オ) 「せたがや探究的な学び」をさらに推進し、思考力、判断力、表現力の向上を図る。そのために、学びを深める場面において「様々な考えを共有することにより、新たな気づきをもたせたり、視野を広げたりする」協働的思考力、「正解や考え等に対して批判的な考察を行い、論理的で偏りがなく、物事を多面的に、客観的に捉える」批判的思考力、「様々な情報等からその正確さも含め判断し、解決策を迫る」創造的思考力を身に付けさせるために、話し合い等の場面においてそのねらいを明確にして活動を行っていく。
- (カ) 生徒が主語となる授業展開の構築の研究を進める。そのために講師等を招聘した研修等を行う。
- (キ) 7月・12月に各教科においてアンケートを実施し、学校評価も含め、個々の教員が客観的に授業の振り返りを行い、授業の工夫、改善を行う。
- (ク) 学校全体の教育活動を通じて、一人一台のタブレット端末等の効果的な利活用を推進し、分かりやすい授業の構築及び情報リテラシー等のさらなる向上に努める。
- (ケ) タブレット端末は学習を行うための文房具として適切に使用するよう、改めて指導を行っていく。
- (コ) 「授業を受ける姿勢」「教室等の環境整備」「授業の開始・終了」等の授業規律については、授業の基礎であり、繰り返し指導等を行い、良好な学習環境を構築する。

② 生活指導について

問題行動等については、生活指導主任を中心として、学年主任、担任等が連携し、情報の共有、組織的な対応を行う。指導に当たっては、生徒指導提要进行を基に、積極的な生活指導を推進する。

また、生徒、保護者等への対応として、まず傾聴することにより、できるだけ正確な状況を把握するとともに、把握した情報を基に課題を明確にし、被害者側のケアの継続を含み、生徒の成長を第一に考え指導等を行い、生徒が安心して学校生活を送れるよう、個々の状況に応じた指導を行う。

さらに、様々な特性がある生徒への対応として、関係諸機関と連携を密に図り、支援を進めるとと

もに、教員の力量が高められるように、スクールカウンセラーの協力も得て、生徒理解に関する研修会等を実施する。

【令和7年度に向けた主な方策】

(ア) 【 共感的な人間関係の育成 】

「失敗しても次につなげられる雰囲気醸成されている」「間違いやできないことを笑わない」「なぜそう思ったのかを共有できる」「どうすればできるようになるかみんなと考えられる」等の人間関係を育成するために、人権教育及び道徳教育を充実させ、生徒の生活に安定感と落ち着きを定着させ、「健全育成と心の教育」、「デジタル・シティズンシップ教育」等を組織的に推進する。

(イ) 【 安全・安心な風土の醸成 】

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を醸成するために、教育相談室の充実をはじめ、毎月行う学校独自の生徒アンケート、「ふれあい月間」、「WebQ-U」生活アンケート等を活用し、校内委員会を充実させ、生徒の状況を細かく把握し、様々な課題に対応していく。

(ウ) 【 自己存在感の感受 】

特別支援教育等を推進し、特別な配慮を要する生徒や保護者等への対応について、細やかに継続的にスモールステップで行っていきけるよう、SC、巡回心理士、等の専門的な指導、助言を踏まえ、校内委員会において組織的に対応していくとともに、保護者、関係外部機関等との連携を密にしていく。また、教員の特別支援教育に関する資質の向上を図り、ユニバーサルデザインの視点をもった授業を研究し、どの生徒にとっても分かりやすい授業を構築していく。

(エ) 【 自己決定の場の提供 】

問題行動等があった場合、当該生徒に対し、急いで謝罪の会等をもって終わりとせず、自分のしたことに対してしっかり向き合う時間を確保し、自ら考え、課題に気づき、言動等を改善していきける指導を、地域、保護者等と連携して行っていく。また、奉仕活動や美化活動等については、その意義を考えさせ、主体的に実践していきけるよう指導していく。

③ 学校行事等について

本校の学校行事は、生徒、保護者ともに「達成感がある」「楽しい」という状況がアンケート等から読み取れ、生徒一人一人が、主体的、かつ意欲的に活動が行われていると考えている。今後は、再度各行事のねらいを明確にし、精選を図り、身に付けさせたい力を適切に向上させるとともに、授業内で行える体験学習等の機会を効率よく増やし、学校行事の充実を図っていく。また、様々な体験学習等の機会を地域・保護者等と連携し、さらなる達成感や、達成感が得られるよう工夫に努めていく。

【令和7年度に向けた主な方策】

(ア) 新たに時間を設定せず、授業を外部機関等と連携した体験学習で行う等の工夫を研究し、学校行事等のさらなる充実を図っていく。

(イ) 1日の時程を工夫し、行事等に活用できる時間を放課後に確保する。

④ 特色ある教育活動

今年度まで本校の特色ある教育活動で行ってきた『平和学習』のさらなる深化のため、人類がこの地球で幸せに暮らし続けるために考え、行動する「SDGs」17目標にテーマを広げ、1年生から3年生までで一貫した探求的な学習に挑戦していく。

また、漢検、数検、英検に挑戦できる場を設定し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指す。

【令和7年度に向けた主な方策】

(ア) 生徒一人一人がテーマを決めて調べ学習に取り組み、3年間を通してそのテーマに関する学習を深められるよう指導する。

(イ) 英検、漢検、数検の受検を校内で行える機会を確保し、主体的に学習に取り組む機会を設定する。

⑤ キャリア・未来デザイン教育（進路指導）について

キャリア・未来デザイン教育の充実に努めるために3年間を見通し、自己理解、職場訪問、職場体験、上級学校訪問、ボランティア活動等、様々な体験活動を通して、キャリアプランニング能力の育成と力強く未来を切り開いていく力を育てていく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア) キャリア・パスポート等を活用し、各学期末に行われる三者面談等で、生徒自身が教員及び保護者等に学んだことプレゼンテーションし、「身に付けたこと」「成長したこと」等をアウトプットするとともに、「これから身に付けていきたいこと」等を明確にし、そのことに対し、主体的に学びに取り組めるよう指導していく。
- (イ) 地域・保護者の連携のもと、ゲストティーチャー等を招聘して、地域等を含めたチーム上祖師谷中学校として、組織的に活動していく。
- (ウ) 年間2回の面談等で、個々の能力・希望・特質にあった進路指導を行い、個に応じたキャリア形成を推進する。
- (エ) 不登校生徒の進路に関する講演会等、PTA及び外部関係機関と連携を図り、様々な情報を発信するとともに、個々の生徒の状況を踏まえ、スモールステップの目標をもたせたり、ICT機器を活用等による支援をしたりすることを推進していく。

⑥ 部活動について

部活動を通して、スポーツや文化・芸術に親しむとともに、異年齢の生徒が集団で行う活動の中で、主体性を育むとともに、社会性、責任感、連帯感、体力向上や様々な技能の取得等を行っていく。そのために、校内で活動が続ける部活動については、安全、かつ安心して活動ができる環境を整えていくとともに、専門性が高い部活動指導員の積極的な活用を行っていく。

また、部活動に関わる地域連携の推進を図り、地域移行できる部活動は移行していく。

さらに、教員の異動等を鑑み、顧問の配置等については十分に検討し、学校と地域が連携し、部活動の継続的・安定的な充実に努めるよう努めていく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア) 地域連携も含め、持続可能な部活動運営に努めていく。

⑦ 教職員について

法規法令を遵守、業務の効率化、授業力向上のための自己研鑽等を主体的に行うとともに、生徒との関わりについて、可能な限り生徒と接する場面や時間を費やし、向き合う時間を大切にする。また一人一人生徒の特性を活かすとともに、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の理解と実践を推進していく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア) 校内研修等を通して、ICT活用のスキルを磨き、学校から最新の情報を発信していくスキルを身に付ける。
- (イ) WEBQUの結果を分析し、定期的に各学級の状況及び生徒理解について学校全体で共有し、より良い人間関係を築き、全ての教職員が同一の方針の、生徒指導を確実にに行えるよう、生徒一人一人への声かけに努め、生徒の何気ない発言や行動にも注意を向けられる危機意識を身に付ける。
- (ウ) 従来の一斉授業スタイル等から転換を図り、令和の日本型学校教育を推進していく。
- (エ) 与えられた現状の中で、様々な課題に対し、「どうすればできるか」を考え、行動する。
- (オ) 学校運営、学年運営で、個人面談等を充実させ、不登校生徒等へも丁寧な対応を行うとともに、関係諸機関及び保護者と連携して生徒の健全育成に努める。
- (カ) 服務について法令遵守を常に意識し、生徒・保護者から信頼され、学校の教育目標を具現化するために努力する教師集団を目指す。
- (キ) インクルーシブ教育を理解し、実践していくとともに、特別支援教育の視点での生徒理解等を全

教職員で共有し、生徒一人一人への指導に活かしながら、個別最適な学びが行えるよう努める。

⑧ 広報活動・情報提供について

学校ホームページを活用した情報発信は、学校評価アンケートにおいて保護者、生徒から高い評価を受けている。ホームページの更新は、リアルタイムで学校の状況が報告できる良さがあるので、個人情報の保護には最新の注意を払いながら、今後も、さらに効果的に情報公開に努めていく。

また、引き続き「すぐーる」を活用し、学校からのお知らせ等の発信をしていく。なお、未読等により、情報の周知がされないことが無いよう、お知らせ等は「すぐーる」を活用していくことについて、保護者等に周知を徹底していく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア)学校ホームページを本校への興味、関心を高め、地域、保護者等に円滑に情報発信できるよう、リニューアルする。
- (イ)今後も継続して、各種だよりや、すぐーる、学校のホームページによる発信等を充実させ、学校の様子、生徒の様子を伝えていく。

⑨ 地域との連携について

生徒のボランティア活動等の地域活動を積極的に進めてきたことが評価されている。今後より一層多くの関わりをもって参加させていく。また、地域との細やかな連携のもとに多くの生徒が参加できるように工夫していく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア)年間の地域活動を生徒に示し、地域活動に参加するのではなくボランティア活動としての希望を取り地域の一員であるという意識をもたせていく。
- (イ)学校運営委員会、地域等と連携を図り、ボランティア活動を進めていく。
- (ウ)避難所開設訓練には一学年全員が参加し、地域の一員としてこの防災訓練通じ、災害時に活動できるよう生徒の資質の向上を図っていく。

⑩ 学校の安全性について

施設について、令和7年度は校庭及び外周のフェンスの一部の改修が予定されている。工事期間中の生徒の学校生活への影響を最小限に抑えたいと考えているが、現状、令和7年7月後半より、12月末までは校庭が使用できない状況である。授業内容の工夫及び区の教育委員会等と連携を図り、対応していく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア)危機管理などの安全面には迅速・的確に対応していくよう努める。
- (イ)避難訓練は様々な状況を想定し、実施していく。また、引き続き地域と連携して行う避難所運営訓練を行い、防災等に関する対応力と意識を高めていく。

⑪ 保護者について

保護者と連携を図り、生徒を成長させることを第一に考え、共育をしていく。
また、PTAや地域との連携を密にし、生徒たちのために三位一体となって、手を携えながら学校を支える体制を築いていく。

【令和7年度に向けた主な方策】

- (ア)外部人材の活用をさらに促進するために、学校ホームページ、すぐーる等を活用し、人材の募集等を行い、保護者の方の学校運営の参画をお願いする情報発信を推進する。

⑫ 学校教育目標について

自ら学び、考え、判断し、進取の気風のもとに、共同してよりよい社会、持続可能な社会を築き、未来を切り開いていく生徒の育成を目指して次の教育目標を定める。

(令和7年度変更なし)

『自主・自律』

『自主』…直面する諸々の課題に対して、学んだ知識や技能を使って、あきらめることなく探求心をもってその解を求めぬいていけること

『自律』…夢や希望を現実のものとするために、社会的規範に従って自己を律すること

目指す生徒像

- 不屈の精神をもって夢の実現に努力する生徒
- 人権を尊重し、他者を思いやれる心豊かな生徒
- 進取の気風をもって未来を築く生徒